

環境先進国

ドイツから学ぶ

78

吉田 浩巳



今、ドイツで一番力を入れている再生可能エネルギーは海上における風力発電です。

世界に先行する形で急激に広まった太陽光パネル発電は海外、とりわけ中国との価格競争に勝つことができず、また、政府の買い取り価格の大幅な引き下げなど、さまざまな問題も浮上しています。

こういった状況下でドイツでは市民が出資者を募って事業組合を作り風力発電を設置するという動きが広まっています。

私が訪問したベンスハイム市職員のジョースト氏は市役所の仕事とは別で個人的に風

力発電の事業組合の中心的な役割を担っています。

ジョースト氏によると、風力発電は個人で設置するにはコストが高く難しいが、環境にやさしく、さらに実益が取れると確信したので出資者を募ることから始めたそうです。

総事業費は約3億5000万円、最終的には2822人の出資者が集まり、足らない部分は銀行から借りたそうです。出資者への配当は概ね年間6〜8%の実績を上げています。

この風力発電施設は海拔350mの山間部に設置しており、出力は2・05キロワット、支柱

設備を運搬したのかを尋ねたところ、支柱の長さは100mですが大型トレーラーで運べるサイズの柱を現地で溶接して接合しているとのことでした。

また、道路のカーブの所は大型トレーラーが曲がれる幅まで借地をして拡幅し、仮設道路を作って運搬したそうです。地主から土地を借りる交渉においても風力発電に理解を示していただけた地権者だけではないので準備に2年という期間を費やし、建設費だけではなくこのような交渉などにも相当の費用がかかったそうです。

現在抱えている課題としては、近隣住民からの羽切音の苦情が少なからずあるそうです。夜中に苦情が寄せられる

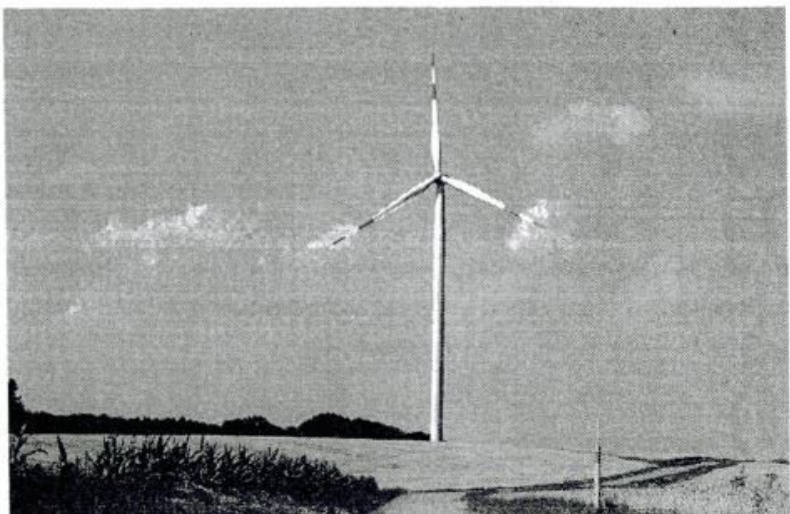
注目の新エネルギー④

市民の出資で風力発電

の高さは100m、羽根の部分の直径は92mで、羽根を含めた構造物全体の高さは146mの大きさです。

現地で説明を聞いた後、ジョースト氏にいくつかの質問をしました。まず、こ

こは山の上の高原でアクセス道路はカーブが多く、さらに道幅が狭い。どのような方法でこの



2822人の出資で事業組合をつくり、総費用約3億5000万円で建設した風力発電施設

こともあり、その時は羽根の角度を変えたり回転速度を緩めたりするなどの対応をしているとのことでした。

設置当初は、特に近隣住民の対応に苦労したそうです。また、定期的なメンテナンスが必要で維持管理については当初思っていたよりも時間もコストもかかっているそうです。しかしながら、これらの経費を差し引いても10年ほどで減価償却が終わわり、それ以降は純利益が返ってくるので、環境にも優しく、さらにお金が入るといふことで出資者には喜ばれています。

(社団法人まちづくり国際交流センター理事長) 第2、第4、第5水曜日掲載